

日本の VLBI 史（初期及び発展期）

「ハワイが年間 8cm の速度で日本に近づいている」とか、「地球の直径の大きさに相当する巨大電波望遠鏡の分解能で準星を観測した」、など耳にしたことがあるでしょう。大陸間の距離を cm 単位で測る能力を持ち、また、月に立つ人を見分ける分解能（ミリ秒角）で天体観測できるこの技術は VLBI と呼ばれ、1970 年頃からカナダや米国と並んで日本の研究・技術者たちが開発に挑み、日本で大きく発展した技術です。この資料では、初期及び発展期における基礎的な試験システムの開発から国際実験の成功まで 7 年に及ぶ悪戦苦闘の様子や、その後の世界を驚かせた数々の観測と成果を紹介します。

現在（2015 年）、日本での VLBI システムの開発開始から既に 40 年を経ており、当時の貴重な資料を残すため、旧郵政省電波研究所鹿島支所第 3 宇宙通信研究室のメンバーを中心にした「日本の VLBI の初期及び発展期の資料収集と記録を残す会」が 2013 年に結成されました。本資料は同研究所 OB、国土地理院などの関係機関（OB）や関連会社の方々の協力の下、会のメンバーによる編集により完成したものです。

平成 27 年 7 月

日本の VLBI の初期及び成長期の資料収集と記録を残す会